

会 議 録

名 称	令和6年度 松山市子ども・子育て会議 教育・保育部会（第5回）	
事 務 局	こども家庭部保育・幼稚園課 T E L 0 8 9 (9 4 8) 6 2 2 4 F A X 0 8 9 (9 3 4) 1 0 2 1	
開催日時	令和7年1月30日（木） 午後2時40分～午後3時25分	
開催場所	松山市青少年センター3階 大ホール	
出席者	委 員	稲田 直行、宇津見 亮子、香川 実恵子、小助川 元太、二宮 一郎、濱田 由紀、森 公夫、吉野 亜祐美（五十音順，敬称略）
	事務局	保育・幼稚園課 課長 奥村 高史 ほか 合計10名
議 題	令和7年度の利用定員の設定について ほか	
議事内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 協議事項</p> <p>（1）令和7年度の利用定員の設定について</p> <p>（2）保育定員確保に向けた方針について</p> <p>3. その他 連絡事項等</p> <p>4. 閉会</p> <p>【委員からの意見等】</p> <p>協議事項（1）及び（2）に関して、事務局案のとおり承認。そのほか、保育士確保に関する意見等は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育士を確保できないと定員を増やせない。保育士養成校の学生も減っている。保育ニーズが今後も増加するならば、今のままでは対応できなくなる。事業者も今後の体制など今までにないことを考えていかないと保育士確保は難しい。その辺り、柔軟な考え方を取り入れて対応してもらえるとよい。 • 保育士に定着してもらう方法を新たな視点で、みんなで考えていく必要があると思う。 • 保育事業者は保育教諭を求めているが、保育士養成校では入学する学生自体が減っており、小規模の事業所には学生が来ない。そこで潜在保育士を現場復帰させる仕組みを市で考えてほしい。 • 潜在保育士が復職できるようなフォローができれば復帰しやすくなると思う。 • 潜在保育士の確保は愛媛県が対応窓口を設けているが、市でも何かできればと思う。 • 過去のアンケートでは保育士の離職や転職理由の一つに人間関係や仕事のきつさが挙がっている。ICT化がその解決策の一つと思って普及啓発をしている。長く働くためには働きやすい職場になっていくことが必要であり、働き方改革に取り組まれているところだが、新しいかたちを考えていくことが重要だと思う。 • 人手不足なのでDX化を進めるべきだと思う。一方で、一番しんどいのは人間関係なので、いかに働きやすい職場をつくっていくかが重要な課題だと思う。 • 保護者同士で話をすると、昔保育士だったが、今は別の仕事に就いている人が結構いる。離職者がどう思っているのかフィードバックがあると、打開するきっかけになるのではないかなと思う。 • 保育は7時から19時がオーソドックスな勤務パターンである。子育てしながら復帰される方は、こどもが学校に行っている時間帯に仕事をしたいという人が多いので、早朝や夜間の時間帯は一定の職員にしわ寄せがいきやすくなってしまふのが課題である。社会全体的に保護者が自分の仕事を朝少し遅らせるとか早く迎えに来られるような流れにならないと難しい。 • 現場や保護者の立場から貴重な意見が出たので、市に前向きに検討してほしい。 	

